



第15号

# 「めぐみちゃんの まちづくりだより」

～ 市民と農家の宝もの けやきの里のめぐみです ～

西東京市では、農業者と市民が相互理解を深め、都市の農業・農地が持つ多面的な機能を発揮させることにより、農地の保全を図っていくことを目的に、「都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。事業の一環として整備された『農のアトリエ「葺の里」』を活用して、市内の農業を伝える課外授業『西東京市の農業《知っとくスクール》』を実施しました。

事業の  
ねらい

昔の農の風景や農具の展示空間、交流スペース、情報交換、勉強会等の場として活用する。

事業の  
効果

市民がまちの農業を知り、「農」をテーマとした交流拠点となる。

2月7日（金）に碧山小学校3年生約100名を迎えて《知っとくスクール》を実施しました。今回の《知っとくスクール》では、市内で農業を営んでいる農家の矢ヶ崎さんに「農家のしごと」、農のアトリエ「葺の里」農園主の富岡さんに「農作業で使われている機械」についてお話をいただきました。

## 01 農家の一曰

今回講師をしてくださった矢ヶ崎さんは、南町で野菜の生産を行っている農家さんです。まず始めに「農家の一曰」として、矢ヶ崎さんの日常についてお話していただきました。

矢ヶ崎さんの一日のスケジュールは、早朝4時30分に起床して、出荷作業を終え、その後は翌日の

出荷に備えて、収穫や結束などの準備をします。午後は、畑で肥培管理等の作業を行います。夕食後は、出荷した作物の伝票作成等の事務作業をして、深夜に就寝するそうです。

子どもたちは、矢ヶ崎さんの一日の仕事の説明を聞いて、農家の仕事の大変さや、一日で行う作業の多さに驚いていました。

ルッコラと春菊は、ビニールハウスで育てています。



## 02 農家の一年

続いて、農家の一年について説明をしていただきました。

矢ヶ崎さんの畑では、ルッコラ、春菊、エダマメやスナップエンドウ等の野菜を栽培しています。作物を育てていない畑では、次に作る作物のために、畑を消毒したり、肥料をまいたりしています。

年間を通して栽培しているルッコラ等の野菜は、収穫時期を見越して、季節に応じて種蒔の間隔を

調整しているそうで、栽培農家ならではの経験に基づく工夫を知ることができました。

また、「江戸東京野菜」という、江戸時代に現在の東京周辺で栽培され、消費されていた、地域とのつながりが深い野菜の栽培もしています。年間で10種類以上栽培しているそうです。「伝統小松菜」は別名「後関晩生小松菜（ごせきばんせいこまつな）」とも呼ばれ、「後関（ごせき）」さんという農家を作った品種だそうです。また、市場でよく見かける小

松菜は中国野菜との交配種で、「伝統小松菜」とは違うことも教えていただきました。



「島戸大根」  
(左)は、根も茎も葉も、全体にくせがないので、大根おろしにして食べると美味しいです。「伝統小松菜」(右)は、苦味やくせが少ないので、サラダで食べるのがおすすめです。

